掟光寺だより

令和7年
1月号

お寺の行事案内

●1月 1日（水）
「寺年賀参り」午前中

●1月 4・5・6日
「家祈祷参り」終日

●1月 19日（日）
「終い御講（寄合会計）」
13時30分

十二支の順番？

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。辰年が終わり今年は巳年になりますね。皆さんが普段「えと（干支）」と言っている十二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）ですが、なぜこの順番なのでしょうか。干支と言えば動物をイメージすることが多いですが、実はこの漢字は元々は動物ではなく植物の成長段階を表す漢字なのです。動物のイメージがついたのは後からなのです。一応紹介すると次の通りです。

○子＝新しい命が種の中で芽生え始める
○丑＝芽が種の中に生まれ、まだ伸びることができない
○寅＝春が来て根や茎が生まれる
○卯＝根や茎が地面を覆う
○辰＝根や茎の形が整う
○巳＝根や茎の成長が限界を迎える
○午＝植物の成長が止まる
○未＝葉が生い茂り果実が出来始める
○申＝果実が育ち固まっていく
○酉＝果実が完全に育った
○戌＝植物が枯れている
○亥＝植物の命が種の中に閉じ込めている

今日はこの話しではなく、皆さんが聞いたことがある昔話。神様が動物たちを十二匹選んで王様にしてあげるというので、動物たちが山のてっぺんに向かう物語です。たくさんの絵本にもなっているお話で知っている方も多いのではないでしょうか。これについて、空想科学研究所の柳田理科雄さんが「実際の動物たちの走る速さで考えたらどんな順番になるのか」と考えている興味深いコラムがあったので紹介させて頂きます。

そもそもどんな話しだったか。『十二支のはじまり』（岩崎京子・文　二俣英五郎・画／教育画劇）という本では次のように書かれています。

昔々、ある年の暮れに神様は動物達にお触れを出しました。そのお触れとは、正月の朝に御殿に来るようにということ。また、来た者から順番に十二番までを一年ずつその年の大将にするということです。

動物達は、それを聞いて自分こそは一番乗りだと大騒ぎを始めました。

猫はあまりにも張り切りすぎて、神様のところに挨拶に行くのはいつだったのかを忘れてしまいます。そこで、鼠に尋ねるのですが、鼠は正月の二日の日だと嘘を教えます。

牛は自分が鈍いことをわかっているので正月の前の晩から御殿まで出発し始めます。そして、姑息な鼠はこそっと牛の背中に飛び乗って、すやすやと眠りながら朝を待ちます。

やがて朝になると、御殿の門が重々しく開きました。牛は前の晩から出発したので、そのころには門の前で待っていました。

ところが、鼠が牛の背中から飛び降りると、ちゃっかり一番乗りを果たします。そして、鼠が一番乗りだったので牛は二番になってしまいます。

足の速さが自慢の虎は、颯爽と御殿まで辿り着きますが、それでも前の晩から出発していた鼠や牛には敵いません。

虎の次には、同じく足の速い兎も御殿に到着しますが、自慢の足にかまけて油断してしまい、一番に

はなれませんでした。

そうやって動物達は競い合いながら神様のいる御殿を目指し、龍、蛇、馬、羊……と御殿に到着します。

他にも狐や狸、鹿や狼、リスや鶴、亀やイタチも御殿を目指したのですが、みんな一緒に出発したのでお互いにぶつかったり、転んだりして、とうとう十二番までに間に合わなかったのです。

というのが物語のあらすじです。

鼠はずっと牛の背中に乗っていき、ゴールの直前に御殿に駆け込んで一着になり。空を飛べるはずの竜は、蛇と一緒に行こうとして五位に沈み。昔から仲の悪かった猿と犬は、レースの最中にケンカして、仲裁に入った鶏ともども九・十・十一位になり。猪は、猪突猛進のあまり御殿の前を通り過ぎてしまい、最下位の十二位。

これに対して疑問に思った柳田理科雄（やなぎたりかお）さんは自身の体験やらで強引に登場人物13匹の速度を計算してみたら次のようになりました。

子＝鼠：時速10km

丑＝牛：時速4km
※牛は人間に引かれて荷物を運ぶので、速さは人間と同じとした

寅＝虎：時速64km

卯＝兎：時速72km

辰＝竜：時速360km以上
※竜は自在に空を舞うといわれるが、偏西風より遅いと吹き流されてしまうから、その最速値より速いはず、と考えた

巳＝蛇：時速16km
※ヘビは、計測値のあるブラックマンバの速度

午＝馬：時速68km
※馬は競走馬のスピード

未＝羊：時速13km
※羊の群れは人が馬に乗って誘導する。馬の走り方には四段階があるが、二番目に遅い「速足（はやあし）」の速度＝時速13kmとした

申＝猿：時速30km
※ニホンザルの計測値

酉＝鶏：時速18km
※鶏の速度は、筆者の経験から。小学5年生のとき、走って鶏を捕まえたことがあるのだが、当時の自分の50m走のタイムから計算すると時速18km

戌＝犬：時速36km
※日本犬は50mを5秒で走る

亥＝猪：時速45km

猫：時速48km
※猫の時速48kmは瞬間的なスピード

と速度を仮定すると、これに基づく十二支は次の順番になる。

1番：辰＝竜
2番：卯＝兎
3番：午＝馬
4番：寅＝虎
5番：猫
6番：亥＝猪
7番：戌＝犬
8番：申＝猿
9番：酉＝鶏
10番：巳＝蛇
11番：未＝羊
12番：子＝鼠

やはり辰＝竜はダントツで一位ですね。竜は架空の生き物なのに偏西風で速度を計算しているのではユニークですね。

十二支で名を連ねる丑＝牛さんはまさかの落選になります。

そもそも蛇は変温動物なので冬の競争では冬眠してて走れないのでは？

瞬間的な速さがあっても持久力がある動物と持久力がない動物では差があるのでは？

まだまだ議論の余地がある結論ですが、今までと違った見方で面白い結果ではなかったでしょうか。みなさんの正月の話しの小ネタにまた使ってみてください。